

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人 協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫
両団体理事長 半田 晴久
教育部会長 若林 克彦
両団体専務理事 清原 淳平

教育部会のお知らせ (第332回)

日時 平成29年4月21日(金) 午後1時半～3時半

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第3会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より下車2分、永田町駅(有楽町線・南北線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。時刻前に到着された方は、恐縮ですが、金属探知機通過後、受付脇のロビーにてお待ちください。会議開始後にお越しの方は、受付に「第3会議室に行きたい」旨、お伝え下されば、お迎えにまいります。

議題 1、最近の高等教育改革について思う

挨拶 若林克彦部会長(国土館大学元学長)

2、昨年度の教育部会における議論を総括し、課題を抽出する
解説 若林克彦部会長

報告 3月16日開催の、第331回教育部会は、若林克彦部会長が議長を務めて行われました。まず、若林部会長より、「最近の高等教育改革について思う」と題して解説がありました。世界で最も権威があるとされている英タイムズ・ハイヤー・エデュケーションが発表した世界大学ランキングで、日本の大学でトップ100に入っていたのは東大と京大の2つ。アジア最上位はシンガポール国立大で、香港5校、中国・韓国4校ずつに比べて後れを取っていることは否定できない。評価基準には外国人教員が多い

るか、留学生をどれだけ受けいれているかなども含まれており、一概に日本の教育水準がアジアの中で後れを取っているとはこれだけでは言えないだろう。ただ、科学技術系の雑誌において、日本の学者の論文引用数が減少傾向にあることも報道されており、多忙によって研究に集中できないという問題点も以前のレクチュアでは講師から指摘されていた。

次に、若林部会長より、日経ビジネス2月20日号特集「行きたい大学がない」を元に解説、一同にて意見交換がありました。今、一部の大学は入試問題や英語教育を受験予備校に外注している。大学ランキングを上げる目的やスーパーグローバル大学の指定を受けて補助金を得ようとする目的で、手が回らない分野については外注している現状のようだ。このような肩書で大学のブランド力を上げて受験生を確保しなければ、いずれ潰れるかもしれないという危機感によるものだ。一方、日本の学生の中でも、日本の大学に進学しない動きが出ており、アジア人留学生の間ではさらに如実に出ている。一例として、ベトナムのトップ大学が立命館やICUなどの日本の有名私大より上位にランクされるようになったことが挙げられている。もう一つ、文系大学廃止論が議論になったことがある。この真相は教育学部なのに教員免許取得を卒業要件としない課程を廃止しようという議論が大げさに広まったものようだが、文系の学生は実社会で役に立たないという意見が説得力をもってしまう現状にあることも確かのようなのだ。成果主義で研究予算が理系に傾斜されていたのも背景にはある。

大学の抜本改革を妨げる原因として、教授会の存在を挙げている。学校教育法が改正され、学長の諮問機関となった今でも、影響力は大きい。現場は改革疲れが蔓延しているとも言われる。研究の時間が減り、教育の時間が増えたことがその原因。また、大学院を卒業した研究者が非正規雇用になっており、優秀な学生が大学院に進まないという。大学の無償化については5兆円の国庫負担が必要との試算もあり、実現可能かどうか不明だ。

★資料代 会員は五百円、非会員は二千元 御願い申し上げます。

次回、4月21日（金）の教育部会に

出・欠（いずれかに○印）

事務局宛 F A X 03-3507-8587

御芳名 _____

貴方様の F A X _____ 電話 _____

テロ対策への警備から、**非会員で参加希望の方は、必ず、
前日までに事務局へ御連絡下さい。**

当日連絡先 080-8836-6203 又は 080-9292-2620